「いのちのたび博物館」の名称について

当博物館は、世界の、そして北九州のさまざまな化石や動植物標本、歴史資料などを豊富に展示し、子どもたちに見る楽しさ、知る喜びを感じて欲しいと考えています。

「アースモール」では、この地球上で様々な生命が絶滅と進化を繰り返してきたことを知り、「生命の多様性館」などでは、多くの生きものたちが、今私たちとともに生きていることを実感していただきたいと思います。

現在、人間の手によって第６番目の大絶滅が起こっていると言われており、自然を大切にし、他の生きものたちとの共生を図っていくことが求められています。

当館は、いのちある全てのものが永遠に〝いのちのたび〟を続けていけるようにとの深い思いを込めて「いのちのたび博物館」という名称にしています。

子どもたちにとっての〝いのちのたび〟とは、身近な草や木、虫や動物など、全てのいのちあるもののことを考えること、友達と仲良くすること、家族に感謝する心などと考えています。このことばのなかに流れている「いのちの大切さ」を感じ理解して欲しいと願っています。

館内の見学を通して、太古の昔から続いてきている〝いのちのたび〟を感じ取り、人間も自然環境との関わりのなかで存続してきたこと、身近な環境を大切にすることなどを子どもたちとともに考える機会にしていただきたいと思います。

CONTENTS

もくじ

博物館利用の手引について …… 2
博物館の利用について …… 3

博物館利用の学習展開例

［ 歴史的分野 ］

第１学年　古代までの日本――― 日本の原始時代 …… 4
第１学年　古代までの日本――― 日本の古代国家の形成 …… 8
第１学年　中世の日本――――― 鎌倉時代の人々のくらし …… 12
第１学年　中世の日本――――― 下剋上と民衆の力 …… 16
第２学年　近世の日本――――― 江戸時代の百姓・町人と産業の発達 …… 20
第２学年　近世の日本――――― 江戸幕府の成立と東アジア …… 24
第２学年　近現代の日本と世界―― 近代日本の社会 …… 28

［ 地理的分野 ］

第１学年　世界と比べた日本の地域的特色――自然環境の特色 …… 32

資料編

探究館の展示案内「弥生時代復元住居」 …… 36
探究館映像「弥生の暮らし」 …… 37
遣明船シアター「門司が支えた遣明船」 …… 38
長野城合戦模型解説ナレーション …… 40

※ギガノトサウルスは国立科学博物館協力

博物館利用の手引きについて

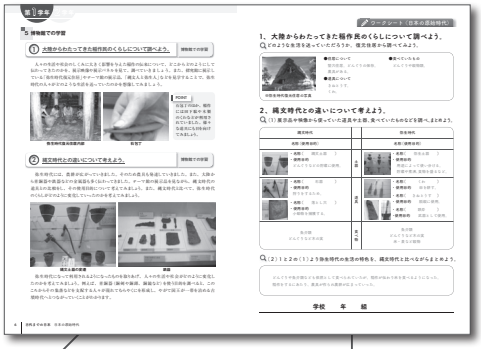
本書は、子どもたちが博物館の学習資源を利用してより効果的な学習が行えるよう、学習指導要領のねらいを踏まえた学習プランや学習展開例を紹介した教師用の手引き書です。

小学校・中学校で学習する内容を中心に作成したもので、当博物館の展示資料や館内施設等を利用した単元別学習展開例を教科・学年別で紹介し、標準時間配当も年間指導計画に無理なく組み込めるよう計画しました。また、博物館の事前学習や事後の学習までを一つの授業と考え、博物館の展示資料や学習に関連する参考資料を掲載し、学習内容の深まりと今後につなげる授業づくりを考慮し以下に示す内容に留意して作成しました。

内容の構成

単元別学習展開例、ワークシート（記録用紙）、学習関連資料（口絵写真を含む）、博物館利用案内、貸出教材（ディスカバリーボックス）、博物館ホームページ等で構成し、博物館を利用した学習指導書として作成しています。単元別学習展開例と学習関連資料について以下に示します。

（１）単元別学習展開例（基本：４ページ構成）



1 ページ目 単元名、単元の概要、ねらいと手だて、指導計画

単元別学習内容と標準時間配当を本市教育委員会発行の『教育課程編成資料（教科）』と関連づけて博物館での学習内容を計画しました。

2 ページ目 博物館での学習展開例

博物館の展示資料や施設を利用した具体的な生徒たちの学習内容と活動を示しました。

また、教師からの活動の支援として指導上の留意点も示しました。

3 ページ目 博物館での学習

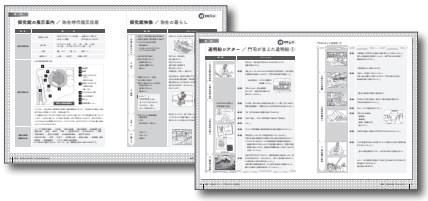
博物館での学習展開例（２ページ）のイメージがつかめるよう博物館の展示資料の写真や参考資料、施設の効果的な活用を含めた内容等を示しました。

4 ページ目 ワークシート（記録用紙）

学習を展開する際に使用するワークシートと児童生徒の予想される記入例を示しました。（使用時には記入例を消し、コピーして使用するか、HP からダウンロードしてご利用ください。）

（２）学習関連資料

単元別学習展開例に関連する博物館展示資料や展示解説資料、参考資料写真資料など、博物館を利用した教科の学習資料として示しました。

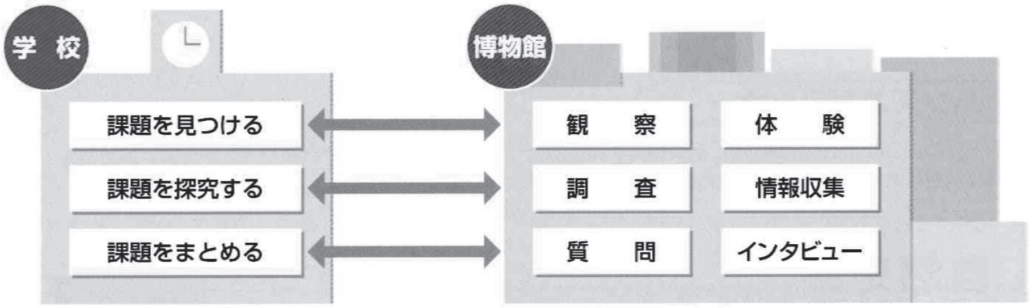


ミュージアムティーチャー（ＭＴ）

学校現場と博物館との結び付きを強めるため、当博物館ではミュージアムティーチャー（ＭＴ）として教員を配属しています。博物館を利用した学習の単元開発、資料の紹介、修学旅行や校外学習のお手伝いなど幅広く対応しています。

博物館の利用について

当博物館は、自然史分野・歴史分野の展示を一堂に集めた博物館です。多岐の分野にわたる展示物の中から限られた時間で子どもたちが主体的に活動することができるように、予め学校でテーマ（課題）を決めて見学されることをお薦めします。学校からのご利用に際しては、時間の調整や教科と展示物の関連性など、できる限りの情報の提供や体験的な活動の支援を行い、一人でも多くの子どもたちや先生方が「学ぶ喜び」を分かち合っていけるようにしたいと考えています。



博物館の一般的な利用例

入　館

ガイド館にてガイダンスビデオ※視聴（要予約）

※　ガイダンスビデオ：博物館の見所をまとめた１１分ほどのビデオです

基本は自由見学です。見学途中の質問は展示交流員までお尋ねください。

学習支援（事前の打ち合わせが必要）

・体験学習プログラム　・学芸員や博物館スタッフからの講話　など

退　館

ガイド館前に集合

見学のみの場合は２時間以上がおすすめです。

（体験学習を計画されている場合は３時間以上）

学習の組み立て例

○　博物館の「もの（展示物）」と「人（学芸員）」を活用した子ども主体の授業づくり

参加・体験型の展示 → 楽しくわかりやすい学習 体験学習・講話 → 学習内容の補充・発展 興味・関心や知的好奇心の喚起（より効果的な学習）

事前打ち合わせ → 学校のカリキュラムにあわせたプログラムを計画 → 楽しくわかりやすい学習 体験学習・講話

※　学芸員や博物館スタッフによる学習支援については、原則として事前打ち合わせの中で調整を行います。博物館普及課ＭＴ（ミュージアムティーチャー）が窓口として受け付けますので、気軽にご相談ください。

古代までの日本 | 日本の原始時代

1　単元の概要

本単元では、日本列島に人々が住み始め、狩猟・採集を行っていた人々の生活が農耕の広まりとともに変化していったことや、石器や土器などの道具の進歩とともに地域のまとまりが“むら”から“くに”に発展していくまでの過程を学びます。さまざまなところで発掘が行われ、我々の祖先の生活の様子が明らかになっています。新しい発見も多く、今までの原始時代の見直しが進められています。このことも踏まえながら、想像図などの資料も活用し、原始時代の人々の生活やその変化について調べたり考えたりしていきましょう。

2　学習のねらいと手だて

◉　日本列島における農耕の広まりと生活の変化や当時の人々の信仰などを通して、東アジアの影響を受けながら、わが国の国家が形成されたことを理解させる。

◉　新たな遺跡や遺物の発見による考古学などの成果の活用を図るようにする。また、想像図などの資料を活用しながら、当時の人々の生活の変化を考えさせる。

農具と土器づくりの様子

3　指導計画（総時数４時間）

学習活動と内容	○指導・支援上の留意点　◆展示物など	時間
Ⅰ　私たち日本人の祖先はどこからきたか考える。 ①　日本列島の成り立ち ②　日本人のルーツ	○　テーマ館展示映像「大陸から来た動物と人類の登場」や各地の遺跡などをもとにして、どんな発見や説があるか調べさせる。 ◆　「大陸から来た動物と人類の登場」映像	1 時間
Ⅱ　旧石器時代や縄文時代のくらしについて考える。 ①　土器の使用 ②　縄文人の生活のあと	○　テーマ館の展示資料をもとに、縄文時代の生活について調べさせる。 ◆　石器の用途と使い方　◆　縄文時代パネル ◆　土器類、道具類、貝塚、埋葬人骨など	1 時間
Ⅲ　稲作を通した人々のくらしを調べ、縄文時代から弥生時代の生活の変化について考える。 ①　大陸からわたってきた稲作民のくらし ②　縄文時代との違い	博物館での学習 ○　稲作の伝播の様子をテーマ館展示映像「路」から調べさせる。 ○　弥生時代の人々の生活と社会の変化を、探究館の展示や展示映像「海を渡ってきた文物」などをもとに調べさせる。 ◆　「路」映像　◆　長野小西田遺跡展示	1 時間
Ⅳ　現代と原始時代の生活を比較する。 ①　原始時代の道具や生活の様子を調べる。 ②　現代生活で使う道具と比較し、原始時代の生活についてまとめる。	○　「旧石器時代から古墳時代の北九州」の展示を注意深く見学させる。 ○　原始時代と現代の道具を比較することによって当時の生活を理解させる。	1 時間

4　学習展開例（1時間扱い）

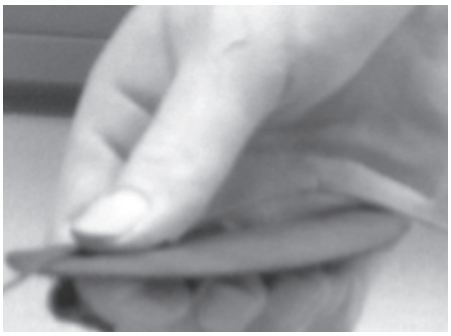
学習活動	○指導・支援上の留意点	◆展示物など
① 大陸からわたってきた稲作民のくらしについて調べよう。		博物館での学習 0.5時間
Ⅰ　展示映像「路」や説明パネル「稲作の始まり」を見て稲作の伝播について調べる。	○　どこからどのようにして日本に稲作が伝わったかを確認させる。 ○　日本各地に稲作が広がったことをイメージさせるために、わが国の代表的な弥生時代の遺跡の位置を確認させる。	◆展示映像「路」 ◆説明パネル「稲作の始まり」
Ⅱ　復元住居を見学させたり、発掘品を調べたりすることで、弥生時代の生活がどのようなものだったかを考える。	○　住居については、縄文時代から「竪穴住居」であることを押さえる。 ○　石包丁や鍬などをどのように使用したのかもイメージさせる。 ○　稲作の始まりに伴い、集団をまとめる人間が出現するようになり“くに”としてのまとまりが出来るようになったことに気付かせる。	◆弥生時代復元住居 ◆石包丁 ◆弥生土器 ◆高坏 ◆広形銅矛
② 縄文時代との違いについて考えよう。		博物館での学習 0.5時間
Ⅲ　テーマ館の展示物や展示映像を見て、それぞれの時代で使用されていた道具等の名称を記録し、使用目的をまとめる。	○　土器については、比較を通してそれぞれの特徴をまとめさせる。 ○　弥生時代になって使用させるようになった道具（金属器）にも着目させる。	◆土器 縄文土器 弥生土器 ◆道具 貝輪（縄文） 木製農具（弥生） 鉄器（弥生） ◆展示映像 「海を渡ってきた文物」
Ⅳ　縄文時代と弥生時代の生活の違いをまとめる。	○　今までに調べたことをふまえて、縄文時代と弥生時代の違いをまとめさせる。その際に、狩猟や採集が中心の生活から、農耕が中心の生活への変化に着目させる。 ○　稲作や金属器が伝わったことで人々のくらしが変わったことに気付かせる。	◆縄文人と弥生人

5 博物館での学習

① 大陸からわたってきた稲作民のくらしについて調べよう。

人々の生活や社会のしくみに大きく影響を与えた稲作の伝来について、どこからどのようにして伝わってきたのかを、展示映像や展示パネルを見て調べていきましょう。また、探究館に展示している「弥生時代復元住居」やテーマ館の展示品、「縄文人と弥生人」などを見学することで、弥生時代の人々がどのような生活を送っていたのかを想像してみましょう。

弥生時代復元住居内部


石包丁

POINT

石包丁のほか、稲作には木製のくわなどが利用されていました。様々な道具にも目を向けてみましょう。

② 縄文時代との違いについて考えよう。

弥生時代には、農耕が広がっていきました。そのため農具も発達していきました。また、大陸から青銅器や鉄器などの金属器も多く伝わってきました。テーマ館の展示品を見ながら、縄文時代の道具と比較し、その使用目的について考えてみましょう。また、縄文時代と比べて、弥生時代のくらしがどのように変化していったのかを考えてみましょう。

縄文土器の変遷

鉄器

弥生時代になって利用されるようになったものを取りあげ、人々の生活や社会がどのように変化したのかを考えてみましょう。例えば、青銅器（銅剣や銅鐸、銅鏡など）を使う目的を調べると、このころからその集落などを支配する人々が現れて“むら”や“くに”を形成し、やがて王が一帯を治める古墳時代へとつながっていくことがわかります。

1　大陸からわたってきた稲作民のくらしについて調べよう。

弥生時代の人々は、どのような生活を送っていただろうか。復元住居から調べてみよう。

弥生時代復元住居

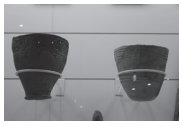
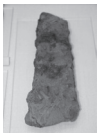
●住居について
竪穴住居。どんぐりの保存。
農具がある。

●道具について
きねとうす。
くわ。

●食べていたもの
どんぐりや穀物類。
魚介類

2　縄文時代との違いについて考えよう。

（1）　展示品や映像から使っていた道具や土器食べていたものなどを調べまとめよう。

縄文時代		弥生時代
名称（使用目的）		名称（使用目的）
 ・名称（　縄文土器　） ・使用目的 どんぐりなどの貯蔵に使用。 食物の煮炊きに使用	土器	・名称（　弥生土器　） ・使用目的 用途によって使い分ける。 貯蔵や煮沸、食物を盛るなど。
・名称（　石器　） ・使用目的 狩りをするため。 ・名称（　落とし穴　） ・使用目的 動物を捕獲する。	道具	・名称（　くわ　） ・使用目的　田を耕す。 ・名称（　きねとうす　） ・使用目的　脱穀に使用。  ・名称（　鉄斧　） ・使用目的　武器として使用。
魚介類・肉 どんぐりなど木の実	食べ物	魚介類 どんぐりなど木の実 米・麦など穀物

（2）　1と2の（1）より弥生時代の生活の特色を、縄文時代と比べながらまとめよう。

どんぐりや魚介類なども依然として食べられていたが、稲作が伝わり米を食べるようになった。
稲作をするにあたり、食生活の幅が広がり、より安定していくと共に、集団で定住するようになった。

学校　1年　　組

古代までの日本 | 日本の古代国家の形成

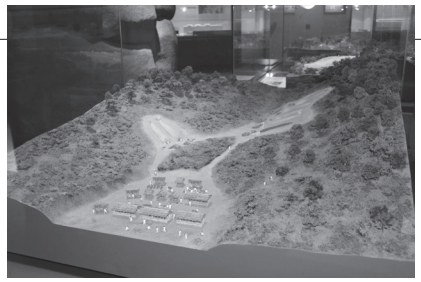
1 単元の概要

中国や朝鮮半島において国家が統一されていく中で、海という「路」を通じて日本とそれらの地域とのつながりが飛躍的に強まりました。特に、渡来人は、金属加工などの技術を伝えるだけでなく、朝廷での財政や政治にもたずさわるなど、日本の政治や文化に大きな影響を与えました。それらの様子を学ぶことにより日本が中国や朝鮮半島から大きな影響を受け、国家が形成されていったことを理解します。旧石器時代から古墳時代までの様々な出土品を基に、それぞれの時代のものと比較しながら、古代国家が形成されていった様子を学習していきましょう。

2 学習のねらいと手だて

◉ 古墳の大きさやその分布から、大和朝廷という古代国家が形成されていく過程を理解させる。

◉ 古墳や副飾品・土器や須恵器を基に渡来人の果たした役割に着目させるようにする。また、縄文・弥生土器と須恵器について比較させながらその違いを考え、小グループで意見交換し、自分の考えをまとめさせる活動を設定する。



天観寺山古窯跡群

3 指導計画（総時数 5 時間）

学習活動と内容	○指導・支援上の留意点　◆展示物など	時間
Ⅰ　古墳時代の社会の様子について調べる。 ①　巨大な墓・副飾品 ②　大王と豪族 ③　古墳時代の人々のくらし	◆「古墳時代パネル」を見て古墳についての興味・関心を高めさせる。 ◆「古墳分布図」を見て、古墳の分布について調べ、北九州周辺に前方後円墳が現れてきた時期を考えさせる。 ○　鉄製鍬・鋤先等を見て鉄製農具の広まりに気づかせる。	1 時間
Ⅱ　大和朝廷の成立と渡来人の果たした役割についてまとめる。 ①　5 世紀ごろの東アジア ②　地域に残る渡来人の足跡を調べる。	○　渡来人のもたらした文物や技術についてまとめさせる。	1 時間
Ⅲ　渡来人がもたらした大陸の進んだ技術や文化の特色を調べる。 ①　古墳の中に入ってその様子を体感する。 ②　須恵器とそれ以前の土器を比較する。	博物館での学習 ◆　日明一本松塚古墳石室模型に入る。 ○　展示物で縄文土器・弥生土器・須恵器を確認し、その違いを体感させる。 ◆　土器パズル「土器をつくってみよう」	1 時間
Ⅳ　東アジアの統一国家とわが国の政治への影響について考える。 ①　中国・朝鮮の統一　②　蘇我氏と聖徳太子	◆「仏教文化の伝来と寺院瓦」パネル ◆　鬼瓦 ◆　グラフィック「法隆寺五重塔の高さ」	1 時間
Ⅴ　律令国家の仕組みについて調べる。 ①　大化の改新　②　大王から天皇へ	◆「律令国家の成立」パネル　◆「官人と文字」パネル ◆　奈良時代の土器・墨入れ・木簡	1 時間

4　学習展開例（1時間扱い）

学習活動	○指導・支援上の留意点	◆展示物など
① 古墳の中に入って内部を調べてみよう。		博物館での学習 1時間
Ⅰ　展示映像を視聴して、この単元の概要を理解する。	○　展示映像の説明を聞いて、古代のわが国と大陸との交流について思い出させる。	◆展示映像「路―北九州の人々の歩みと交流」 ◆展示映像「海を渡ってきた文物」 ◆朝鮮半島との交流 無文土器 有柄式磨製石剣
	○　国内での交流も確認させる。	◆中国大陸との交流 五銖銭 内行花文鏡
Ⅱ　古墳の構造を調べ、内部を探検する。	○　実物大の大きさを体感するとともに、内部の様子（壁画や石棺の様子等）にも着目させる。	◆国内での交流 手焙形土器 ヒスイ勾玉 日明一本松塚古墳 石室模型
Ⅲ　地域の古墳群について調べる	○　副葬品や古墳分布図パネルから、各地に有力者が現れ人々を支配するようになったことに気付かせる。	日明一本松塚古墳 副葬品 古墳分布図パネル
② 須恵器とそれ以前との土器を比べてみよう。		
Ⅰ　朝鮮半島の陶質土器と古墳時代の須恵器（倭風の陶質土器）を比べる。	○　類似点に着目させ、文化の伝承に気付かせる。	◆5世紀の朝鮮半島の陶質土器 ◆古墳時代の須恵器 ◆天観寺山古窯跡群パネル
Ⅱ　須恵器をつくる技術について調べる。	○　のぼり窯の技術についてその工夫を考えさせ、それを伝えた渡来人の存在に気付かせる。	◆天観寺山古窯跡群ジオラマ ◆「土器パズル」（縄文・弥生土器）
Ⅲ　ハンズオンテーブルを利用して縄文土器・弥生土器・須恵器の特徴を話し合う。	○　縄文土器・弥生土器と、渡来人のもたらした須恵器との違いに着目させ、特徴をまとめさせる。	
Ⅳ　渡来人のもたらした文物について確認する。	○　教室での学習内容を復習・確認させる。	

5　博物館での学習

博物館の展示物を見て、触って、体感し、渡来人のもたらした文物について理解を深めよう

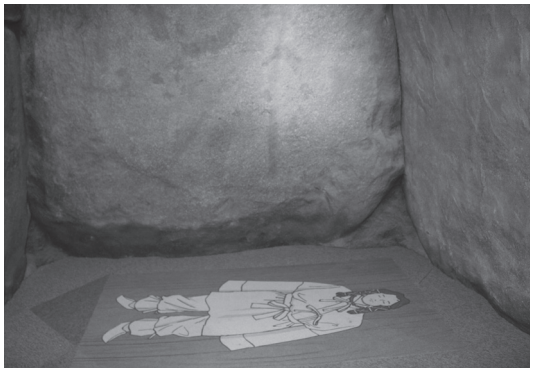
古代の日本は大陸からの影響を強く受けていました。古墳時代は大陸から日本にわたってきた渡来人たちによって大陸の文化が日本に入ってきました。また、飛鳥時代や奈良時代には、隋や唐の高度な文化を求め、多くの使者や留学生・留学僧が危険を顧みず、大海を渡り、多くの文物を取り入れました。テーマ館にある復元された装飾古墳の石室に入ったり、ハンズオンコーナーで土器の復元にチャレンジしたりするなど古代の文化や人々の生活の様子を体感してみましょう。

① 古墳の中に入って内部を調べてみよう。

石室奥壁は幅 2.1 m高さ 2.5m の花崗岩の一枚岩を使用し、そこに装飾模様を施している。その模様はベンガラ※1 による赤色を放射線状に 10 本あしらったもので装飾古墳として価値が高い。

※1：ベンガラ…酸化第二鉄を主成分とする無機赤色顔料の一種

日明一本松塚古墳石室模型



日明一本松塚古墳模型内部

② 縄文時代との違いについて考えよう。

◉ ハンズオンコーナー

POINT　「土器をつくってみよう」

縄文土器・弥生土器の破片を組み合わせ完成させながら土器に触れ、土器の特徴を調べることができる。

◉ 日明一本松塚古墳副葬品

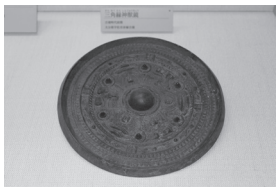
POINT　須恵器脚付短頸広口壺

写真の須恵器は、古墳時代後期（6 世紀末）のもの。縄文土器や弥生土器と須恵器の厚み・堅さ・形の違いがわかる。

1　古墳について調べよう。

（1）　古墳について、また内部の様子などについて分かったことをまとめよう！

日明一本松塚古墳石室模型



副葬品（鏡）

（2）　古墳がつくられた理由を考えてみよう！

・大きな墓を作ることにより死後も自分の力を示すため。

※　自分の死後も権力を誇示するためという考えもあるが、民が積極的に墓つくりに参加したという考え方もある。

（3）　古墳に埋葬された人たちを副葬品や古墳の作り方から想像してみよう！

・地域を治めた有力者（豪族）　・身分の高い人　など

※　古墳から見つかった副葬品からどのような人が葬られたかを考えることができる記述があれば、さらによい。

2　須恵器と土器の発達について調べよう。

（1）　縄文土器や弥生土器と比べて須恵器にはどのような特徴がありますか。テーマ館の展示やハンズオンコーナーの土器片を観察してまとめましょう。

	縄文土器	弥生土器	須恵器
土器			
色	黒褐色・赤褐色など	赤茶・茶色・こげ茶など	灰　色
文様	・縄目の模様や、貝や竹による条痕・圧痕	・簡略なものが多い。	・ないものが多い。 ・同心円文が見られる。
器形	・深い鉢状のものが、多い。	・かめ、壷、高坏など色々な形の土器が見られる。	・壺、瓶、甕、鉢、杯(つき)(坏)、高杯(たかつき)、樹(はそう・皿など器の種類が多様性に富んでいる。
厚さ	・全般的に厚手	・全般的に薄手	・厚さは薄く均一
手触り	・ざらざらした感じ	・やや、ざらついた感じ	・滑らかで硬い感じ

※実際に土器片を見たり、触ったりさせて特徴をつかませるとよい。

（2）　渡来人は、日本にどのようなことを伝えたのだろう。

・朝鮮半島からの渡来人たちによって
○須恵器やのぼり窯の技術
○土木、建築、金属加工の技術
○漢字や仏教、儒教など
が伝えられた。

学校　1年　　組

中世の日本 | 鎌倉時代の人々のくらし

1 単元の概要

本単元は、鎌倉幕府の成立などを通して、武家政治の特色を考えさせ、武士が台頭して武家政権を成立させ、その支配が全国に広まっていったことを理解させるとともに、中世の時代の特色を探ろうとする課題意識をもたせることをねらいとしています。鎌倉幕府の成立と支配の拡大は、社会や文化などさまざまな面で変化を引き起こしています。特に仏教は社会や文化に大きく影響し、禅宗は武士の気風に合い、幕府の保護を受けて広まりました。また新しい仏教は、そのわかりやすさなどによって庶民の生活に根付いていきました。ここでは武士や庶民の生活の中に定着した仏教という視点から、社会や文化の変化の様子を考えていきましょう。

2 学習のねらいと手だて（※教育課程編成資料の指導計画を参照）

◉ 武士の勢力が広まり、武家政権が成立したことと、その後の武家社会の展開を東アジア世界の歴史を背景に理解させるとともに、武家社会の発展や民衆の成長を背景に生まれた鎌倉時代の文化や仏教の特色について理解させる。

◉ 小学校で学習した人物や時代の流れのポイントとなる人物を取り上げ、武家社会の成立の様子や人々の生活の様子を分かりやすくとらえさせる。

鎮西上人坐像

3 指導計画（総時数４時間）

学習活動と内容	○指導・支援上の留意点　◆展示物など	時間
Ⅰ　中世は、どんな時代なのか予想する。 ①　院政　②　保元の乱・平清盛・平治の乱 ③　日宋貿易	○　幕府の成立等を通して、貴族から武士への政権の移行を確認させる。 ◆　「鎌倉時代」パネル	1 時間
Ⅱ　鎌倉幕府の政治の特色を調べる。 ①　源平の戦い ②　守護・地頭・鎌倉幕府・承久の乱 ③　執権政治	○　壇ノ浦の戦いで敗れた平氏と北九州の関わりに気付かせる。また、幕府の位置や承久の乱などを通して朝廷と幕府の関係についても着目させる。 ◆　「源平の戦いと北九州」パネル	1 時間
Ⅲ　四つのテーマに分かれて調べ、鎌倉時代の特色を説明する。 【テーマ】 ①　源平合戦と北九州とのかかわり ②　幕府支配が及んだ北九州 ③　蒙古の襲来と九州の武士 ④　北九州に広まった新しい仏教･文化	博物館での学習 ○　事前に四つのテーマについて、役割を決め、どのようなことを調べるのかを具体的にイメージさせる。 ◆　鎮西上人坐像　◆　陶製五輪塔 ◆　本朝祖師絵伝（法然上人伝記絵巻） ◆　「北九州市内の経塚分布図」パネル ◆　青銅製経筒　◆　木造如意輪観音坐像 ◆　木造釈迦如来立像　◆蒙古襲来絵詞 ◆　金剛力士像　◆　「源平の戦いと北九州」パネル	2 時間

4　学習展開例（2時間扱い）

学習活動	○指導・支援上の留意点	◆展示物など
四つのテーマに分かれて調べ、鎌倉時代の特色を説明しよう		
① テーマに分かれて、博物館の各種資料を調べよう。		博物館での学習 1時間
テーマ 1. 源平合戦と北九州とのかかわり ・　源平合戦の経過を調べる。 ・　北九州に残る平氏ゆかりの地を調べる。	○　門司近辺のみならず、下関の赤間神宮や小倉南区の「隠蓑（かくれみの）」などにも源平合戦と関わりがあることに気付かせる。	◆「鎌倉時代」パネル ◆「源平の戦いと北九州」パネル
テーマ 2. 幕府支配が及んだ北九州 ・　北九州で守護・地頭に任命された一族などから、鎌倉幕府の支配が北九州に及んだことを調べる。	○　「鎌倉時代」のパネルを見て、北九州で守護・地頭に任命された一族を確認させる。 ○　大興善寺の金剛力士像などから、政治だけでなく、文化も影響を受けていたことに気付かせる。	◆「鎌倉時代」パネル ◆金剛力士像
テーマ 3. 蒙古襲来と九州の武士 ・　蒙古が九州に襲来した際の応戦の様子やその後の社会の変化について調べる。	○　元軍がとった航路の地図から、現在の博多湾から長崎の平戸など、広い範囲に戦いが及んだことに気付かせる。	◆蒙古襲来絵詞
テーマ 4. 北九州に広まった新しい仏教・文化 ・　北条氏ゆかりの寺にある金剛力士像や経筒、北九州で仏教を広げることに貢献した鎮西上人について調べる。	○　「北九州市内の経筒分布図」と寺との関係性を確認させる。 ○　北九州には鎌倉時代に創建された寺院があることに気付かせる。 ○　鎮西上人の生涯や吉祥寺との関係についての説明文を読み、鎮西上人の功績をまとめさせる。	◆陶製五輪塔 ◆青銅製経筒 ◆金剛力士像 ◆鎮西上人坐像 ◆如意輪観音坐像 ◆釈迦如来立像
② 調べて分かったことを報告・説明しよう。		学校での学習 1時間
・　学習室において、それぞれテーマ別に調べて分かったことを簡潔に報告・説明し合う。 ・　鎌倉時代の特色をまとめる。	○　聞き手には、新たな情報や分かったことなどの要点をメモさせる。話し手には、聞き手がメモを取りやすいようにキーワード化しながら要点を説明させる。	

5 博物館での学習

四つのテーマに分かれて調べ、鎌倉時代の特色を説明しよう

① テーマに分かれて、博物館の各種資料を調べよう。　博物館での学習 1時間

北九州には、古代末から中世にかけての史跡がたくさんあります。

武家政権が成立する過程で激しく争った源氏と平氏の争いの跡の他にも、敗れ去った平氏の行く末を物語るものなど、身近に見ることができます。源頼朝が全国に守護・地頭を配置した段階で武家政権が確立したと言われています。政権の安定は人々の生活に変化を与え、農業・商業が発達しました。このように、古代から中世に移り変わるころの社会や人々の様子を各テーマに分かれて調べ、その変化や時代の特色についてまとめましょう。

◉ テーマ1～テーマ2

「源平の戦いと北九州」パネル

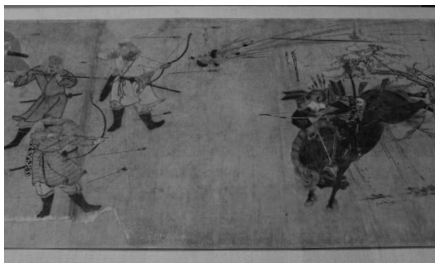
御所神社

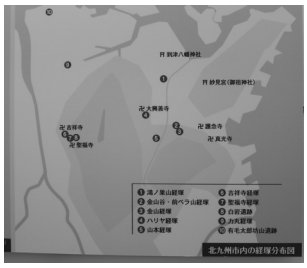
殿墓

◉ テーマ3～テーマ4

北九州の地には北条氏などの進出とともに仏教も広がっていきます。鎮西上人が広めた浄土宗など、さまざまな宗派によって建てられた寺院も北九州に残っています。また仏教の広がりとともに、仏像や経筒などの仏教芸術も広まりました。一方では、蒙古軍が二度に渡り九州へ襲来しました。この戦いを通して幕府の北九州の支配体制が変化しました。このような政治や文化の両面から、中央政権とつながりを深めていった中世の北九州の様子やその変化を調べましょう。

大興善寺金剛力士像


蒙古襲来絵詞



「北九州市内の経塚分布図」パネル

② 調べて分かったことを報告・説明しよう。　学校での学習 1時間

調べて分かったことや気付いたことを、グループで発表し合い、平安時代後期の平氏政権と比べた鎌倉政権の違いや、人々の生活の変化などを考え、まとめましょう。

【テーマ 1】源平合戦と北九州とのかかわり

源平の合戦を通して、平氏は北九州の地とどのようなかかわりをもちましたか。

主に門司区を中心に、城（門司城）や神社などを建て、勢力を広げる拠点となった。

【テーマ 2】幕府支配が及んだ北九州

下の写真の資料と展示資料を見て、表をまとめましょう。

写真の資料名	金剛力士像
鎌倉幕府との関連	安置されている寺は、北条氏が建立したものであり、像はこの時代に栄えた文化を象徴している。
主な出土品	木簡　げた　土器など

【テーマ 3】蒙古の襲来と九州の武士

蒙古襲来に関する資料を基に調べよう。

(1)　蒙古との戦いは、主にどこで行われましたか

福岡志賀島付近や博多湾岸
長崎県の壱岐や平戸、鷹島

(2)　二度の戦いを通して、幕府の九州への支配体制は、どのように変化しましたか。

北条氏一門が鎮西探題となり、北九州では豊前の守護が少弐氏から北条一門に変わった。

【テーマ 4】北九州に広まった新しい仏教・文化

新しい仏教とそれに関係することがらを調べよう。

鎮西上人坐像

○　鎌倉時代に新たに広がった仏教についてまとめよう

浄土宗や浄土真宗、法華宗（日蓮宗）、禅宗（臨済宗や曹洞宗）などが武士や庶民に広がった。

○　鎮西上人についてまとめよう

比叡山で修行の後、法然の門下に入り、浄土宗の第２祖となった。1217年に現在の八幡西区に吉祥寺を建立した。

調べたことをまとめ、平安時代と比べた鎌倉時代の特色についてわかったことや気づいたことを裏面にまとめよう。

学校　１年　　組

中世の日本｜下剋上と民衆の力

1　単元の概要

南北朝争乱と室町幕府、東アジアの国際関係、応仁の乱後の社会的な変動などが、中世の武士や民衆の活力を高めていきました。また、農業など諸産業の発達、畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立、禅宗の文化的な影響などから、武家政治の展開や民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれました。それらのことによって、より多くの人々が時代の主人公になれたときです。私たちの住む北九州でも時代を支える人々がいました。当時の北九州の人々の活躍を通して、わが国全体に目を向けて時代の流れを考えていきましょう。

2　学習のねらいと手だて

◉　東アジアとの国際関係や、応仁の乱後の各地の戦乱の広がりを通して、地方の武士が台頭し、戦国大名が支配するようになった様子を理解する。

◉　九州の武士によって勘合貿易が支えられた様子や、戦国時代の合戦の様子を具体的に調べさせ、下剋上の世の中の特徴をとらえさせる。

長野城合戦の様子

3　指導計画（総時数４時間）

学習活動と内容	○指導・支援上の留意点　◆展示物など	時間
Ⅰ　鎌倉幕府の滅亡、建武の新政から室町幕府の成立までの動きをまとめ、鎌倉幕府と比べ、支配体制の違いを考える。	○　建武の新政の崩壊と南北朝の内乱の間に武士の社会が変化したことに関心をもたせ、学習の見通しをもたせる。 ◆　足利尊氏感状　◆「南北朝・室町時代」パネル	1 時間
Ⅱ　商業や手工業の発展により、民衆の暮らしがどのように変わったかを考え話し合う。	○　産業と交通の発達の中で、商人や手工業者の果たした役割や職業や身分の分化が進んだことについても関心をもたせる。また、町や村の自治活動の具体例にも着目させて理解させる。	1 時間
Ⅲ　なぜ、地方の武士や民衆は下剋上の力をもつことができたのか調べる。 ①　遣明船の様子から、東アジア諸国との交流について調べる。 ②　民衆意識の高まりと、応仁の乱のその後の社会を通して、地方の武士が強くなっていき、社会的・文化的に大きく変動していくことを調べる。	博物館での学習 ○　14～15 世紀の東アジアにおける貿易の発達の中で、勘合貿易について理解させ、その貿易を支えた人々のなかに門司氏がいることに気付かせる。 ◆　遣明船シアター ○　戦乱の時代に北九州にかかわりのある戦国大名に着目させる。 ◆　「長野城合戦」ジオラマ ◆　長野城・園田浦城出土品　等 ◆　「大内文化の流入」パネル　等	2 時間

4　学習展開例（２時間扱い）

学習活動	○指導・支援上の留意点	◆展示物など
① 遣明船の様子から、東アジアと九州とのかかわりを調べよう。		博物館での学習 1 時間
Ⅰ　テーマ館イメージグラフィックを見る	○　19回にわたって派遣された遣明船の合計数が84隻であることを説明する。 ○　84隻の遣明船を仕立てたのは誰なのか課題をもたせる。	◆テーマ館イメージグラフィック
Ⅱ　遣明船シアターの映像を見る。	○　シアターの映像から、遣明船の様子を考えさせ、どんなものが運ばれたかをワークシートに記入させる。	◆シアターの映像と模型 ◆輸入陶磁器 ◆輸入銅銭 ◆永楽通宝（銅銭・明銭）
Ⅲ　どんな人々が遣明船にかかわったのか調べ、九州の武士の成長について考える。	○　勘合貿易に門司氏が大きくかかわっていたことに気付かせる。 ○　産業と交通の発達の中で、多くの武士や民衆が活躍し、成長したことを説明する。	◆勘合印
② 長野城の合戦の様子などから、中世の北九州にゆかりの深い武士たちの様子や関係を調べよう。		博物館での学習 1 時間
Ⅰ　長野城合戦ジオラマを見ながら、解説を聞く。	○　16世紀に北九州では長野氏という武士が勢力をもっていたことを説明する。	◆「戦国の時代」パネル ◆「長野城合戦」パネル ◆長野城合戦ジオラマや解説 ◆長野城出土品
Ⅱ　展示資料やパネルなどから北九州にゆかりのある武士たちをさがす。	○　長野城はどこにあったのか予想させる。（小倉南区長野） ○　ワークシートに北九州にゆかりのある武士の名前をまとめさせる。	◆園田浦城出土品 ◆騎射秘抄 ◆毛利元就書状（門司文書） ◆宗祇馬上図 ◆「飯尾宗祇の路」パネル
Ⅲ　なぜ、民衆が力をもったり、戦国大名が登場したりしたのか考える。また、当時の文化についても触れる。	○　学校で学習した室町幕府の成立や農商工業の発達の様子を説明した上で、博物館の資料等をもう一度見直し、考えさせることで、中世という時代を概観できる手がかりとさせる。	◆「大内文化の流入」パネル

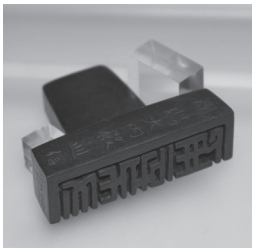
5　博物館での学習

1 遣明船の様子から、東アジアと九州とのかかわりを調べよう。

テーマ館の中世の北九州では、地域にある中世の遺物や資料ばかりではなく、遣明船シアター「門司が支えた遣明船」の映像があります。遣明船シアターでは、遣明船内部の様子が再現されています。展示をただ見るだけではなく、流れる映像からも当時の様子を伺い知ることができます。また、この貿易に門司氏（北九州の武士）たちが大きくかかわっていることに気付くこともできます。さらに、映像で語られた勘合印・陶磁器・永楽銭等を展示物と結びつけることも可能です。

遣明船シアター

※遣明船シアターの詳細については、P38、P39「門司が支えた遣明船①②」をご覧ください。



勘合印

輸入銅銭

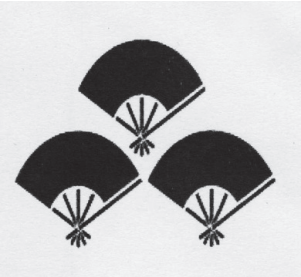
輸入陶磁器

2 長野城の合戦の様子などから、中世の北九州にゆかりの深い武士たちの様子や関係を調べよう。

展示やジオラマを見たり、解説の音声を聞いたりしながら、中世の北九州にゆかりの深い武士や大名を探すことができます。北九州の武士である長野氏が、周辺の有力な戦国大名である大友氏に攻められる様子を長野城合戦ジオラマで知ることができます。そこには、長野氏が必死に城を防御したこともうかがえます。また、その解説を聞くことで、長篠の合戦の 10 年前に合戦ですでに鉄砲が使われていたことに気付くことができます。さらに、北九州が交通の要衝だったので、時の中央政権が直接支配を行おうとしたことから、地元の有力な大名が誕生しづらかったことや中央政権が弱体化した戦国時代には争いが多かったことなどを考えることができます。また、文化面では、大内氏の支配によって京の文化が伝えられたことも見逃せません。

長野城合戦ジオラマ

大友氏の旗印（家紋）



長野氏の旗印（家紋）

鉄砲を打つ兵士

1　遣明船シアターを視聴し、東アジアと九州とのかかわりを調べよう。

（1）　遣明船を通した貿易を始めた幕府の将軍と中国の皇帝は誰ですか。また勘合印が遣明船で使われていた理由は何でしょうか。

幕府の将軍　→　足利義満
中国の皇帝　→　永楽帝

（理由）海賊行為をおこなっていた倭寇と正式な貿易船との区別をつけるため。

（2）　遣明船では、どのようなものを運んでいましたか

中国（明）　→　（銅銭　陶磁器　書籍　絹織物　生糸など）　日本
中国（明）　←　（刀剣　硫黄　銅　蒔絵　漆器　など）　日本

（3）　遣明船を仕立てたり、動かしたりするなどして貿易を支えた北九州の武士の一族は誰ですか。また、九州の武士はどのようして成長していきましたか。

貿易船は門司で造られ、遣明船の船頭に門司氏がになっていました。明との貿易において、門司氏の力は不可欠であり、貿易を通して力をつけていった。しかし、貿易は後に大内氏によって独占されるようになった。

2　中世の北九州にゆかりの深い武士たちの様子や関係を調べよう。

（1）　展示資料などを見て、下の武士たちに関係の深いものを選び、線で結びましょう。

麻生氏	勘合貿易を支えた北九州の武士（遣明船シアター映像を見よう）
門司氏	15 世紀末、花尾城を築いた武士（花尾城合戦パネルを見よう）
大内氏	門司城合戦で大友氏と争った武士（門司文書を見よう）
長野氏	14 世紀末から 16 世紀に北九州に京都の文化を広めた武士（展示資料、パネルを見よう）
大友氏	小倉南区に畝状空堀群などで防御した山城を築いた武士（長野城合戦ジオラマを見たり、音声解説を聞いたりしよう）
毛利氏	1565 年に長野城を鉄砲などの武器を使用して攻めた武士（長野城合戦ジオラマを見たり、音声解説を聞いたりしよう）

（2）　各地の有力な戦国大名は、どのようにして力をつけていくことができたのでしょうか。＜下剋上＞や＜貿易＞などの言葉を使って説明しよう。

実力で上の身分の者をたおして、力をつけたり、貿易の利益によって、経済力をくわえて力をつけたりした。

学校　1 年　　組

近世の日本 | 江戸時代の百姓・町人と産業の発達

1 単元の概要

江戸幕府は身分制度を確立させ、人々はそれぞれの身分の中で職分を果たしました。農村では、人口の多数を占めた農民が、村を生活の基盤として農作業などで助け合いながら暮らし、農村が幕府や藩の経済を支えました。また、都市部では産業・交通の発達とそれに伴う町人文化が形成され、地方にも文化が生まれました。この単元では、身近な地域の中から江戸時代の民衆の生活について小倉で盛んに生産された小倉織などの特産品等を中心に調べ、産業・交通の発達による社会の変化について考えていきましょう。

2 学習のねらいと手だて（※教育課程編成資料の指導計画を参照）

◉ 身分制度の確立や身近な地域の産業・交通の発達などを通して、その時代の民衆の生活に変化がみられるようになったことについて理解させる。

◉ 地方の生活や文化が発達した要因を、長崎街道や宿場町の様子等の各種資料を基にしながら考えさせる。

西国内海名所一覧

3 指導計画（総時数 5 時間）

学習活動と内容	○指導・支援上の留意点　◆展示物など	時間
Ⅰ　農村と町の様子を描いた絵や幕府の禁令などから、当時の人々の暮らしについて気付いたことを発表する。 ①　百姓、五人組、町人 ②　江戸時代の身分制度	◆　小倉城下町の様子（ジオラマ） ◆　豊前小倉図 ◆　西国内海名所一覧 ◆　「町と商人関連」展示	1 時間
Ⅱ　江戸時代の産業の発達について調べる。 ①　新田開発と農業 ②　漁業や鉱業	◆　糸車、紡ぎ車 ◆　縞手本 ◆　川ひらた解説映像「堀川の水運」 ○　農業生産が増大した要因を、農業技術の発達や商品作物の栽培などをもとに考えさせる。	1 時間
Ⅲ　江戸時代の都市・交通の発達について調べる。 ①　三都・五街道・特産品	◆　街道と宿場町等 ◆　上野焼、清水焼、田香焼	1 時間
Ⅳ　身近な地域の江戸時代の産業・交通について調べる。 ①　身近な地域の交通 ②　身近な地域の産業	博物館での学習 ○　「江戸時代の北九州」の展示のうち「町と商人」「街道・宿場町と航路・港町」「水運」の展示資料を参考にする。 ◆　西国内海名所一覧　◆　水運関連の展示 ◆　長崎街道と筑前六宿　◆　川ひらた ◆　小倉織袴　◆　小倉縮献上品	1 時間

4　学習展開例（1時間扱い）

学習活動	○指導・支援上の留意点	◆展示物など
身近な地域の江戸時代の交通、産業の様子について調べよう。		＜博物館での学習＞ 1時間
① 身近な地域の江戸時代の交通について調べよう。		
Ⅰ　「西国内海名所一覧」を見て、たくさんの船が泊められている理由を予想する。	○　資料を見ながら、自分の考えをもたせ、それぞれが予想した考えをワークシートに記入させる。	◆西国内海名所一覧 ◆西国筋船路図巻
Ⅱ　北九州の代表的な水運、海運、渡しを探す。	○　資料パネルを探して、それぞれの名前を調べてワークシートに記入させる。	◆「堀川の水運」パネル ◆「響灘の海運」パネル
Ⅲ　長崎街道を中心に陸上交通について調べる。	○　資料パネルを見て長崎街道について調べ、北九州にあった２つの宿場を探させる。（黒崎宿・木屋瀬宿）	◆「関門海峡の渡し」パネル ◆「長崎街道と筑前六宿」パネル
Ⅳ　北九州の交通の発達の要因について考え、まとめる。	○　江戸時代の交通についてまとめたワークシートの文の空欄に当てはまる言葉をそれぞれ考えさせる。また、本州との玄関である北九州の地理的条件についても押さえさせる。	◆黒崎宿古図 ◆木屋瀬宿図絵馬
② 身近な地域の江戸時代の特産品について調べよう。		
Ⅰ　江戸時代のころ全国的に知られていた北九州の特産品を探す。	○　ワークシートの写真を参考に、江戸時代の特産品の名前を調べさせる。	◆小倉織袴 ◆小倉縮献上品 ◆鶴の子と紅羊羹の暖簾 ◆上野焼 ◆田香焼 ◆清水焼
まとめ　本時の学習で気付いたことや感想を書こう。		
Ⅰ　自分が調べたことや発見したことを振り返り、今日の学習で分かったことや学習の感想を書く。	○　これまでに調べたことを効果的に振り返り、まとめさせるために、江戸時代の交通や産業学習の様子と、それに伴う庶民の生活の変化について分かったことや感じたことなどを書かせるようにする。	

5　博物館での学習

身近な地域の江戸時代の交通、産業の様子について調べよう。　<博物館での学習>

歴史ゾーンのテーマ館（江戸時代）では、江戸時代の人々の生活に関わる交通、旅、当時の北九州の特産品などの資料が豊富に展示されています。それらの資料を見て、当時の人々の生活について考えるとともに人々の工夫や生きるための努力を知るきっかけを得ることができます。

① 身近な地域の江戸時代の交通について調べよう。

江戸時代には、江戸を中心として五街道が定められました。また、水上交通では江戸と大坂の間に菱垣廻船や樽廻船が運行されるなど、全国に交通網が発達していきました。九州においても長崎街道を中心に陸上交通の発達が見られ、多くの人々や年貢米などの物資を輸送する水運が特に発達していました。船を使っての水上輸送は陸路よりも、人やものを大量に運ぶことができるという利点がありました。

西国筋船路図巻

川ひらた

妙見丸図
尾形洞霄筆（複製）

木屋瀬宿図絵馬（複製）

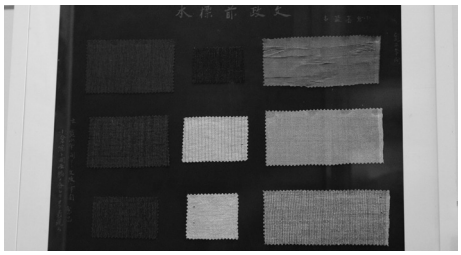
② 身近な地域の江戸時代の特産品について調べよう。

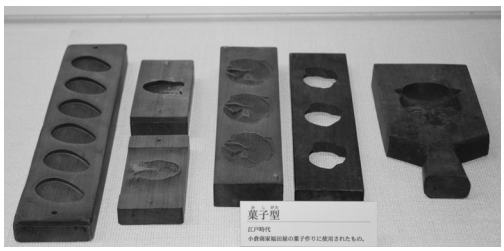
本州への玄関口にある北九州は、交通の要衝の地として、大名の参勤交代、幕府の役人や外国使節の往来など、水陸ともに賑わいを見せました。そのため、中国・朝鮮や全国各地から文化が伝えられ、織物や焼き物、菓子など北九州には多数の特産品が生まれていきました。

山海愛度図会
はやく酔をさましたい女性は豊前小倉縞を着ています。

上野焼

田香焼


縞手本
小倉織や小倉縮は全国的にも有名になりました。


菓子型
饅頭や羊羹など多くの銘菓が生まれました。

1　理由を予想しながら、北九州の交通について考えてみよう。

（1）「西国内海名所一覧」を見て、なぜ川の河口の近くに多くの船が泊められているのか予想してみよう。

西国内海名所一覧

年貢米が集められて、ここから船で運ばれたから。
地方の特産品などが集められ、船で江戸に運ばれたから。

（2）　資料パネルを見て、江戸時代の北九州の代表的な水運、海運、渡しを調べよう。

（　堀川　）の水運、（　響灘　）の海運、（　関門海峡　）の渡し

（3）「長崎街道と筑前六宿」のパネルを見ながら、下の文の（　　）を埋めて、現在の北九州市八幡西区にあった宿場を資料パネルから２つ探してみよう。

江戸時代の九州には、小倉城下から長崎まで通じる「（　長崎　）街道」が整備され、その道筋には多くの宿場が設けられました。その中でも特に福岡藩内で重要とされた６つの宿場は「（　筑前六宿　）」と呼ばれ、多くの人やものが行き交いました。

現在の北九州市八幡西区にあった宿場→（　木屋瀬宿　）（　黒崎宿　）

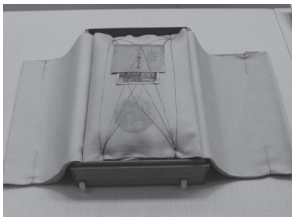
（4）　北九州の交通についてまとめた下の（　　）に言葉を入れて文を完成させましょう。

船を使う（　水上輸送　）は、陸上輸送よりも人やものを一度に（　大量　）に運ぶことができるという利点があります。また、小倉から長崎まで通じる「（　長崎　）街道」も整備されていました。これらのことから（　本州　）と九州の玄関口に位置し、たくさんの人やものが集まってくる北九州は、古くから水上・陸上の（　交通　）が発達しました。

2　江戸時代の北九州の特産品を調べよう。

参勤交代のときの大名の宿所としても栄えた小倉には、江戸時代に全国的にも有名だった特産品が多数ありました。下の写真の特産品を探してみよう。

（小倉織）の袴


（小倉縮）の献上品

（鶴の子）と紅羊羹の暖簾

3　学習を振り返って、感想や気付いたことを裏面に書きましょう。

学校　２年　　組

近世の日本 | 江戸幕府の成立と東アジア

1 単元の概要

江戸幕府は大名を統制するとともに、領内の政治に責任をおわせました。さらに、幕府は身分制度を確立させ、人々は、そのきびしい統制の中で生活していきました。幕府による「鎖国」政策には、キリスト教の禁止などの宗教の統制、外交関係と情報の統制、大名統制といういくつかの側面がありました。このようにして、江戸時代は大きな戦乱のない安定した時代となりました。

「鎖国」政策下において江戸幕府と隣接地域との関係は、長崎を窓口にオランダ・中国と、対馬藩を窓口に朝鮮と、薩摩藩を窓口に琉球王国と、松前藩を通して蝦夷地とそれぞれ交流がありました。

この単元では、主に江戸幕府の成立と大名統制、「鎖国」政策と「鎖国」下の対外関係などについて、博物館の資料を活用し、具体的に調べる学習を通して、江戸幕府の政治の特色をとらえ、260 年間もの長い間、幕府と藩による支配が確立した理由について考えていきましょう。

2 学習のねらいと手だて（※教育課程編成資料の指導計画を参照）

◉ 幕府の成立と大名統制、諸政策を通して江戸幕府の政治の特色について考えさせ、幕府と藩による支配が確立したことを理解させる。

◉ 江戸幕府による大名の統制については、各藩の配置や武家諸法度等の資料を活用して、その領内の政治の責任を大名に負わせたことに気付かせるようにする。

西国内海名所一覧

3 指導計画（総時数 5 時間）

学習活動と内容	○指導・支援上の留意点　◆展示物など	時間
Ⅰ　江戸幕府の成立と大名支配について調べ、江戸時代が長く続いた理由を考える。 ①　徳川家康、関が原の戦い ②　江戸幕府、江戸時代 ③　大名、藩、武家諸法度	博物館での学習 ○　幕府の大名配置の意図に気付かせる。 ○　江戸幕府の支配のしくみから、260 年余り支配が続いた理由に気付かせる。　◆　細川氏、小笠原氏、黒田氏関連の展示　◆　テーマ館通史イメージ映像	2 時間
Ⅱ　鎖国までの歩みをまとめ、鎖国政策の様々な側面について理解する。 ①　朱印船貿易、島原・天草一揆 ②　鎖国	◆　文化の交流、外国の文化パネル ◆　「唐船」打払いの図 ◆　「小倉領藍島略図」のパネル	1 時間
Ⅲ　隣接地域との関係について調べる。 ①　琉球と蝦夷地　②　朝鮮との国交回復	◆　輸入陶磁器 (英国製、オランダ製陶磁器)	1 時間
Ⅳ　中世から近世の時代の転換について考える。 ①　天皇・公家・大名・寺社に対する江戸幕府の政策とそのねらい	◆　テーマ館「平安・鎌倉・室町時代の北九州」「江戸時代の北九州」パネル	1 時間

4　学習展開例（２時間扱いのうち後半の１時間）

学習活動	○指導・支援上の留意点	◆展示物など
江戸幕府が長く続いた理由を幕府の仕組みから考えてみよう		＜博物館での学習＞ 1 時間
身近な地域の江戸時代の大名について調べよう。		
Ⅰ　小倉藩や福岡藩関連の展示を見て身近な地域にあった藩の大名について関心をもつ。	○　小倉藩や福岡藩に関連する展示を見て、身近な地域にも大名が配置されていたことに気付かせる。 ○　郷土の歴史に関心をもたせるために、小倉藩が、どの大名によって代々藩を統制してきたのかを調べさせる。	◆細川忠興画像 ◆南蛮鐘 ◆小笠原忠真画像 ◆黒田長政知行宛行状 ◆国境石 ◆「国境石分布」パネル
Ⅱ　「小倉城と城主」「小笠原氏」パネルや参勤交代関連資料をみて、幕府の大名統制について考える。	○　九州各地の譜代大名や外様大名の配置を基に、幕府の大名配置の意図に気付かせる。 ○　参勤交代を通して、藩への負担を余儀なくされたことや、その反面各地で発達したこと（街道の整備や宿場町の発達など）もあったことに気付かせる。	◆「小倉城と城主」パネル ◆「小笠原氏」パネル ◆「江戸時代の北九州」パネル 「松平美濃守」本陣掛札
武士の生活について調べよう。		
Ⅰ　「小倉城下町の様子」の模型を見たり、展示解説を読んだりして、武士の生活や城下町の発達について調べる。	○　城を中心とした小倉城下町の住居配置や屋敷の大きさなどを比較することによって、武士の生活にも厳しい主従関係があったことなどに気付かせる。	◆「小倉城下町の様子」模型 ◆「小倉城下」パネル ◆「小倉城下町の様子」パネル ◆豊前小倉図 ◆「城下町の形成」パネル
Ⅱ　江戸時代は、なぜ長期安定政権が存続したのかまとめる。	○　強力かつ緻密な大名統制や江戸幕府の支配の仕組みが、幕府の長期存続につながった要因の一つであることに気付かせる。	

5 博物館での学習

江戸幕府が長く続いた理由を幕府の仕組みから考えてみよう

「江戸時代の北九州」の展示では、当時の北九州の特色や大名による統率の様子などについて紹介しています。

当時の北九州は、西部は福岡藩、東部は小倉藩という２つの大名の領地に分かれていました。小倉藩の細川氏・小笠原氏関連の資料や福岡藩の黒田氏関連の資料からは、大名の生活ぶりをしのぶことができます。また、江戸時代の貴重な文献資料や実物資料を展示するとともに大型模型を使ってこの時代の城下町の雰囲気を体感できるように工夫されています。

身近な地域の江戸時代の大名について調べよう。

「江戸時代の北九州」の展示から、身近な小倉や福岡にも、大名が配置されていたことを実感することができます。展示を見たり、展示パネルを読み解いたりしながら、江戸幕府が行った大名に対する統制政策の意図や江戸幕府の支配のしくみを考えていきます。幕藩体制を維持していくための政策が、身近な小倉藩でも行われていたことを調べることによって、江戸幕府の政策が全国に行き渡っていたということを実感することができます。

南蛮鐘

三階菱紋入り懸盤・椀一式

国境石

「松平美濃守」本陣関札

武士の生活について調べよう。

武士は城下町に住み、先祖代々の家がらや功績によって、領地や一定の米を与えられ、役職を分担しました。また、民衆を支配する身分として、名字（姓）を名のることや刀を差すこと（帯刀）などの特権を認められていました。一方で、特権は認められながらも住むところに制約があり、きびしい主従関係の下で生活が送られていました。ここでは、城下町の様子などを調べることによって、武士の特権と幕府による強力な支配の両面から視点をあてて考えていきます。

「小倉城下町の様子」ジオラマ

豊前小倉図

1　身近な地域の大名について調べ、幕府の大名配置の意図や大名の統制について考えよう。

（1）　展示パネル「小倉城と城主」「小笠原氏」「国境の町」を見て適切な言葉を書こう。

関が原合戦の年慶長５年（1600）には、（ ①細川忠興 ）が入国し、同７年には小倉城を大改築して本拠にしました。ついで、寛永９年（1632）には、（ ②小笠原忠真 ）が小倉城に入城しました。②は、（ ③徳川家康 ）のひ孫にあたり、九州唯一の（ ④譜代大名 ）として「九州探題」を自負していました。また、現在の北九州市は、小倉藩と（ ⑤福岡 ）藩にまたがっており、その藩境は、筑前国と（ ⑥豊前 ）国の国境線に重なります。

（2）　「江戸時代の北九州」展示入り口のパネルの文と（1）の内容からキーワードを２つ探し、江戸幕府が大名配置についてどのような工夫をしていたのか考えよう。

九州の玄関や幕府の要所には譜代大名を配置した。また、転封を行うなどして、効果的に大名統制を図った。

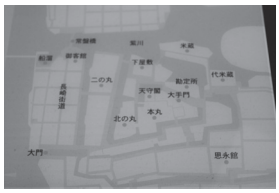
（3）　「江戸時代の北九州」の展示の中から武家諸法度に定められている大名の統制の内容に関連ある展示資料を探そう。また、その資料に関わりがある武家諸法度の内容を下から選び○をつけよう。

展示資料名

武家諸法度

1．大名は毎年４月中に江戸へ参勤すること。
2．新しい城をつくってはいけない。石垣などがこわれたときは奉行所の指示をうけること。
3．大名は、勝手に結婚してはいけない。
4．服装は、分相応なものを着なければならない。（1635 年に出された「武家諸法度」の要約）

2　「小倉城下町の様子」模型や「小倉城下町」のパネルを見て、武士の住んでいた場所について調べよう。



「小倉城下町の様子」パネル

（1）　展示パネルを参考に適切な言葉を入れよう。

小倉の町は、元禄ころまでに整備が終わった。延享３年（１７４６）には、（ 二ノ丸 ）に家老屋敷が（ 三ノ丸 ）に上級家臣の屋敷が、そして、（ 西曲輪 ）や（ 東曲輪 ）には、武家屋敷や町屋が立ち並んだ。そして周囲には（ 寺院 ）が配された。このように城を中心として建設された町を（ 城下町 ）という。

（2）　上の図に本丸・家老屋敷・上級家臣の屋敷・武家屋敷の位置を書きこみ、屋敷の配置から気付いたことや考えたことを書こう。

海岸に近い場所に米蔵を置き、船からの積み出しをしやすいようにしている。また、二ノ丸や三ノ丸は、本丸を囲むように配置し、周辺に堀をめぐらすなど、城主を守る仕組みが図られている。

3　江戸時代が長期存続した理由を、調べたことを基に話し合おう。また、話し合ったことを裏面にまとめよう。

学校　２年　　組

近現代の日本と世界 | 近代日本の社会

1　単元の概要

日本の近代産業は政府による富国強兵・殖産興業政策の下でめざましい発展を遂げていきます。この単元では、近現代の日本と世界の学習の後、近代産業の発展と北九州市の歴史を関連づけた各種テーマを設定して、グループによる課題解決学習を行います。

創業以来、わが国の重工業の発達の担い手となった「官営八幡製鉄所」の発展と変遷や日本のエネルギー資源の一翼を担った筑豊炭田などを中心に、日本の近代化と北九州市の発展について合併前の五つの市を単位としてその特徴と役割を探っていきます。

2　学習のねらいと手だて

◉　明治時代の中ごろから始まった日本の産業革命の進行によって、近代産業が大きく発展し、資本主義経済の基礎が固まっていった過程を、北九州市の発展と関連付けながら理解する。

◉　旧５市の特徴を通して、北九州市の発展と日本の近代産業の特徴をテーマ設定したグループ学習を展開する。特に、北九州市の地理的特色とも関連付けた調査を位置付けるようにする。

山本作兵衛の炭鉱記録画

3　指導計画（総時数９時間）

学習活動と内容	○指導・支援上の留意点　◆展示物など	時間
Ⅰ　わが国の近代化の特徴と工業の発展について調べ、北九州との関わりについてまとめる。 ①　八幡製鉄所が設立された理由 ②　筑豊炭田の歴史とその役割	○　産業革命の様子を、日清・日露戦争と関連してとらえさせる。 ○　教科書の記述から、八幡製鉄所が設立された理由やその後の発展を考えさせる。 ○　官営工場であった点に着目させ、政府主導の産業革命であったことに気付かせる。	1 時間
Ⅱ　グループ分け・課題設定を行う。 ①　調べたい課題や疑問を設定する	○　前時の学習をもとに、調べたいことがらをある程度考えさせておく。 ○　一人が一つの旧市を調べるのが望ましい。	1 時間
Ⅲ　北九州市の産業の発展の様子を調べ、わが国の近代産業と資本主義経済の発展をまとめる。 ・　テーマ館にある写真や資料を見て、 ①　北九州市の工業が飛躍的に発展した理由（八幡製鉄所の立地条件等）を調べる。 ②　旧五市の特徴やその役割を調べる。	博物館での学習 ◆　炭鉱記録画　◆　大日本帝国製鐵所全景 ◆　孫文書「世界平和」扁額 ◆　安川敬一郎邸における孫文との記念写真 ◆　日本鳥瞰図九州大図絵　◆　若松市鳥瞰図 ◆　戸畑市鳥瞰図	1 時間
Ⅳ　発表資料を作成し、発表する。 （旧５市それぞれのテーマについて発表できるグループ編制で活動する） ①　博物館での学習のまとめを行う。 ②　まとめた資料を発表する。	○　最盛期の八幡製鉄所の粗鋼生産や門司港貿易額のわが国におけるシェアなど、課題解決のために必要な資料を、インターネットや文献などで調べさせる。 ○　北九州工業地帯と日本の工業化の関わりについて考察させ、まとめさせる。	3 時間
Ⅳ　グループを再編成し、発表資料の作成を行う。 ①　前時で発表した資料を持ち寄り、同じ市を調べた者同士が集まり、５つのグループ（旧五市）を編成し、発表資料を作成する。 ②　各グループでまとめた資料を発表・展示し相互評価を行う。	○　各自で持ち寄った資料をまとめ、発表方法や形式、発信の仕方を工夫させる。 例：模造紙発表・レポート形式・新聞やポスター形式など ※　年間授業計画等により、学習内容４までで学習計画を立てても良い。	3 時間

4　学習展開例（1 時間扱い）

学習活動	○指導・支援上の留意点	◆展示物など
① 北九州市の工業が発展した理由について調べよう。		博物館での学習 0.5 時間
Ⅰ　「石炭と鉄のみちとまち」のパネルを見て、北九州市の工業の発展の理由について調べる。	○　八幡製鉄所の開業とそれをエネルギー面で支えた筑豊炭田が北九州市の近代工業化の原動力となったことに着目させる。	◆「石炭と鉄のみちとまち」のパネル ◆山本作兵衛最大の炭鉱記録画 ◆製鉄所及附近図 ◆「行き交う人びとと文化」のパネル ◆八幡の町及製鉄所全図 ◆門司鉄道局管内線路案内図 ◆「北九州を代表する起業家・安川敬一郎」 ◆門司築港会社　定款 ◆小倉鉄道沿線名所図絵 ◆港湾 ◆鉄道
Ⅱ　「近代の北九州」のパネルをみて、筑豊炭田と八幡製鉄所の役割を考える。	○　「北九州を代表する起業家・安川敬一郎」のパネルを見て地方の企業家が北九州市の産業の発展に寄与したこと気付かせる。 ○　製鉄と採炭の発展により、交通網（鉄道・船舶）が発達したことが都市化の大きな要因となった事に気付かせる。	
② 旧五市（門司・小倉・若松・八幡・戸畑）の発展について調べ、それぞれの特徴や役割について考えよう。		博物館での学習 0.5 時間
Ⅰ　「発展する五市のまちなみ」のパネルを見て、それぞれの町が特徴的な都市として発展していったことをまとめる。	○　それぞれの市の位置や地形などの地理的要因と歴史的背景に着目し、各々の町の特色と役割を考えさせる。 ○　それぞれの発達やその特色をまとめる中で、各市が独自に発達したものではなく、歴史的な要因や各市との関連などの側面もあることに気付かせる。	◆「発展する五市のまちなみ」のパネル ◆若松市鳥瞰図 ◆戸畑市鳥瞰図 ◆小倉市観光鳥瞰図 ◆八幡市鳥瞰図
Ⅱ　若松市・戸畑市鳥瞰図などの地図資料を見て、旧五市の発展と特色を調べる。	・門司→国際貿易港 　　九州の鉄道の基点 ・小倉→旧小倉藩の城下町 　　→商業都市・軍都 ・若松→最大の石炭積出港 ・八幡→製鉄所 ・戸畑→八幡製鉄所の関連企業	

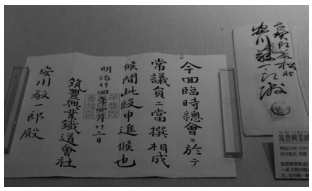
5　博物館での学習

テーマ館の「近代の北九州～石炭と鉄がつくった工業都市～」の展示を見て、北九州市の産業の発展の様子を調べよう。

テーマ館の「近代の北九州～石炭と鉄がつくった工業都市～」では、写真や展示物で北九州市の産業の発展の様子を紹介しています。これらの資料をもとに、北九州市のもとになった旧五市（門司・小倉・若松・八幡・戸畑）の発展の特色や役割を調べ、北九州市の産業、特に工業を中心に発展の様子を探りましょう。

① 北九州市の工業が発展した理由について調べよう。

「近代産業の発展」の資料から、北九州市の工業化の特色を、八幡製鉄所の立地に係る事がらと、製鉄所の操業から派生する都市化の両面から考察することができます。


安川敬一郎宛渋沢栄一書簡（1896.4.30）

工場形勢一覧北九州地図

② 門司・小倉・八幡・若松・戸畑の発展について調べ、それぞれの特徴や役割について考えよう。

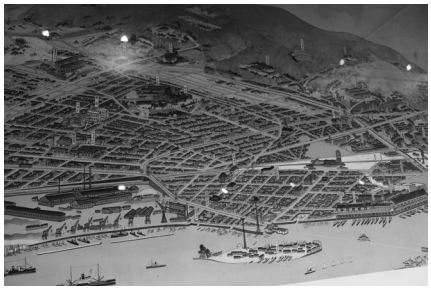
北九州市のもとになった旧五市（門司・小倉・若松・八幡・戸畑）のまちの発展の様子とその特色を調べます。

それぞれのまちは、その地理的特色や歴史的な背景から、八幡製鉄所との深い関わりをもち、あるいは影響を受けていることが分かります。それが、大正時代、昭和時代へと受け継がれており、北九州市の発展やわが国の近代化に果たした役割が見えてきます。

伊藤博文、井上馨
来所記念写真

小倉市観光鳥瞰図

八幡市鳥瞰図


戸畑市鳥瞰図

若松市鳥瞰図

1　北九州市の工業の発展の理由について調べよう。

北九州市の発展の様子を調べてみよう。

○　「北九州の都市化」

・　石炭輸送と製鉄関連産業の発展により仕事を求めて多くの人々が集結されたことが都市化の大きな要因となったことについて記入されていれば可。

○　「近代工業の発展」

・　官営八幡製鉄所の操業が北九州の近代工業の発展の原動力となったことや筑豊炭田がエネルギー源として発展を支えた事に気付く内容であれば可。

北九州市の発展の原因を考えてみよう。

○　筑豊炭田のはたした役割

・　エネルギー資源として、北九州の産業の発展の基盤となった事に気付く内容であれば可。

○　八幡製鉄所のはたした役割

・　八幡製鉄所の発展により、各種産業が発展していったことに気付く内容であれば可。

2　門司・小倉・若松・八幡・戸畑の発展の特色を調べ、それぞれのまちの役割について考えよう。

北九州市が合併する前は、門司・小倉・若松・八幡・戸畑の５つの市が各々特色のある発展をしてきました。そして、北九州市となって、それぞれが都市の機能を分担しています。そこで、それぞれの発展の特色と役割を調べ、北九州市の近代化の様子を探ってみましょう。

	《門司》	《小倉》	《若松》	《八幡》	《戸畑》
特色	・　港湾整備とそれに伴う国際貿易港として発達。 ・　門司鉄道局が置かれ、九州鉄道の中心となる。	・　城下町より近代都市に発展する。軍事施設や兵器工業の「軍都」でもあった。交通網の発達により北九州地方最大の商業都市となる。	・　米･穀物･石炭の集積地から、筑豊の石炭の最大の積出港として発展する。	・　八幡製鉄所とその関連企業や各種工場が建設され、北九州工業地帯の中心となる。	・　八幡製鉄所の関連企業のほかの水産加工業や各種産業の工場が建設され、発展する。

北九州市の工業の発展の原因とその様子や、それぞれの都市の果たした役割を考え、まとめてみよう。

◆官営八幡製鉄所の操業⇒工場が立ち並ぶ⇒北九州工業地帯の発展
・八幡・・・製鉄所のある「鉄の都」
・戸畑・・・関連企業・各種産業の発展
・若松・・・筑豊炭田の積出港
・小倉・・・「軍都」および商業都市として行政・経済の中心地
・門司・・・国際貿易港、九州鉄道の中心地

学校　２年　　組

世界と比べた日本の地域的特色 | 自然環境の特色

1　単元の概要

本単元は、世界的視野からみた日本の地域的特色と、日本全体の視野から見た大まかな国内の諸地域の特色を追究することによって、わが国の国土の特色を様々な面から大観することを主なねらいとします。ここでは、自然環境からみたわが国の地域的特色を視点として追究します。特に、島国であるわが国の海岸は、砂浜やリアス式海岸、岩場など変化に富み自然豊かなものです。中でも北九州市は「干潟」が残り、多様な生物の宝庫にもなるなどの特色があります。それら海岸に着目した地域の自然を基に、わが国の自然環境への関心を高めると共に、その特色を大観しましょう。

2　学習のねらいと手だて

◉　世界や日本の地形や気候などの自然環境の特色をとらえ、日本では自然災害が発生しやすく防災対策が大切であることを理解させ、日本の自然環境に地域差が見られることを大観させる。

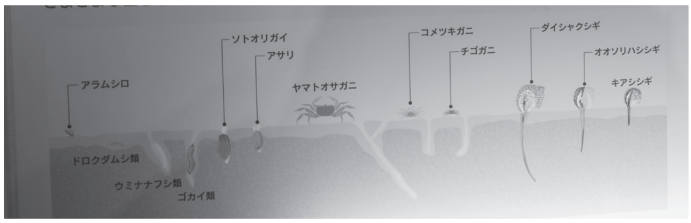
◉　曽根干潟などの具体的な事例を基にわが国の自然の環境の特色を多面的・多角的にとらえさせ、持続可能な自然環境の在り方に対する自分の考えをまとめさせる。

ズグロカモメ

3　指導計画（総時数 8 時間）

学習活動と内容	○指導・支援上の留意点　◆展示物など	時間
Ⅰ　世界の 2 つの造山帯の位置や、世界と比べた日本の山地の特色をまとめる。	○　後の自然災害の時間との関連を図るために、わが国で地震や噴火が多い理由を自分の言葉でまとめさせる。	1 時間
Ⅱ　世界と比べた日本の平野と川の特色をまとめる。	○　世界と日本の河川の比較を図に示しながらその特色をとらえさせる。	1 時間
Ⅲ　日本の海岸と海流の特色について調べ、環境保全について考える。 ①　大まかな海岸の種類や海流の特色について調べる。	○　海岸地形については、自然物と人工物（埋め立て）などが存在することを押さえ、リアス式海岸など変化に富んだ自然の海岸に着目させる。	1 時間
②　日本における干潟の分布や、そのはたらきなどについて調べる。 ③　曽根干潟について調べる。	学校での学習 ○　干潟について、事前に基礎知識を身に付けさせる。 博物館での学習 ○　干潟のジオラマを通して、その特徴を知り、曽根干潟に生息する生物について調べるようにする。 ◆　干潟のジオラマ　◆　自然発見館	2 時間
Ⅳ　世界の気候の分布と各気候帯の特色をまとめる。	○　主な都市の雨温図を活用しながら、気候の特色を説明させる。	1 時間
Ⅴ　日本の気候区分と季節風や海流との関係から、その特色について調べる。	○　日本列島の断面図を活用しながら、気候の地域差について理解させる。	1 時間
Ⅵ　各地で起きている自然災害を調べ、その原因と防災対策について考える。	○　自分の地域や校区で想定される身近な自然災害について触れるようにする。	1 時間

4　学習展開例（２時間扱い）

学習活動	○指導・支援上の留意点	◆展示物など
干潟の分布、さまざまな機能やはたらきなどについて調べてみよう。		学校での事前学習 1 時間
Ⅰ　干潟の分布について調べる。 「曽根干潟の風景」	○　干潟とは何かを説明し、その分布について地図で確認させる。 干潟地図	
Ⅱ　干潟のもつはたらきについて調べる。	○　干潟のもつはたらきについて、インターネット等で調べさせる。	
曽根干潟について調べてみよう。		博物館での学習 1 時間
Ⅰ　干潟のジオラマなどを見てその特徴を知る。  干潟の生物	○　干潟について、視覚的・立体的に認識させる。 ○　食物連鎖についても着目させる。	◆干潟のジオラマ カブトガニ ヨシ ハクセンシオマネキ ヤマトオサガニ アオギス シバナ チュウシャクシギ 干潟で見られる足跡とはい跡 ◆「曽根干潟」パネル ズグロカモメ ◆展示映像「ズグロカモメ」 ◆「干潟の生きもの」パネル ◆「絶滅の恐れのある干潟の鳥―ズグロカモメ」パネル
Ⅱ　曽根干潟に生息する生物について調べる。	○　カブトガニの産卵やズグロカモメの繁殖・越冬などと曽根干潟とのかかわりについて調べさせ、干潟の役割を理解させる。	

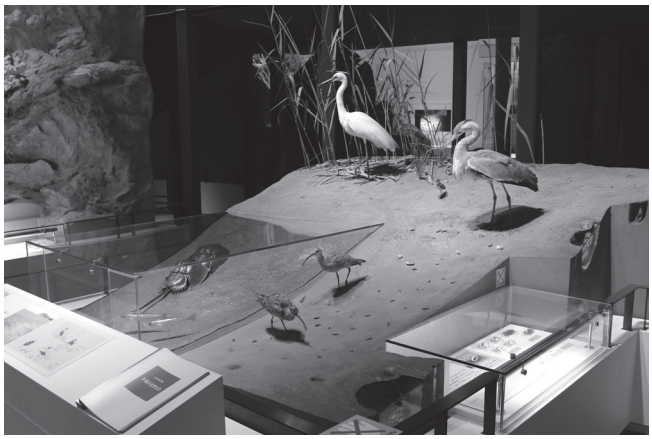
5 博物館での学習

干潟の分布、さまざまな機能やはたらきなどについて調べてみよう。	学校での事前学習 1時間

ここでは、わが国の海流の種類やその特色と、海岸の特色について学習します。中でも、自然として残る海岸の中で、「干潟」に着目させます。そして、干潟の分布や広さ、さまざまな機能やはたらきなどについて、各種文献や資料とインターネット等を使用し、ワークシートにまとめます。

曽根干潟について調べ、わが国の自然環境の保全について考えよう。	博物館での学習 1時間

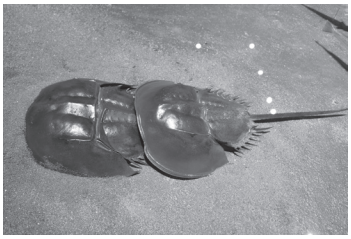
自然発見館の曽根干潟ジオラマでは、干潟の様子を立体的に見ることができます。普段見ることが難しい曽根干潟に生息する絶滅のおそれのある生き物を見ることができるので、事前に学校で学習して得た知識をさらに深めることができます。特にズグロカモメについては、その生態や調査活動などについて、展示やビデオから調べることができます。そして、曽根干潟がもつ自然の役割を考え、それらの自然を私たちは今後どのようにして守っていくことが必要であるのかについて考えましょう。


曽根干潟ジオラマ

「ズグロカモメの渡り」パネル

アオギス

ズグロカモメ

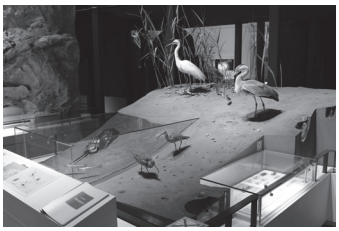

カブトガニ

POINT 自由課題として

干潟を
- このまま保存していこうという考え方
- 干拓や埋め立て地として有効活用していこうという考え方

それぞれの考え方の背景について、インターネットや新聞記事などを参考に自分で考えてみよう。

1　干潟のジオラマをみて、干潟の特徴や曽根干潟に住む生物をあげてみよう。

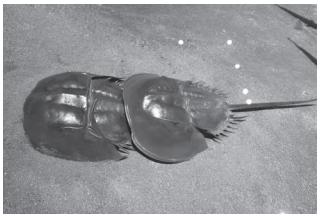


【特徴】
・餌が豊富
・希少生物が生息している。
　→生物を餌とする鳥の宝庫でもある。
・周防灘の沿岸に干潟が発達。
・泥干潟と砂の混じる干潟がある、等。

【生物】
・ズグロカモメ、
　カブトガニ、アオサギ、
　ハクセンシオマネキ、…等。

2　ズグロカモメとカブトガニについて、ビデオや展示パネルをみて調べてみよう。

・　全長 32cm ほどの小型のカモメで世界中に約 5000 羽と少なく、国際的に絶滅の恐れのある種に指定されている。中国東部沿岸の湿地で繁殖し、韓国、日本、台湾などの干潟に渡って越冬する。…等。



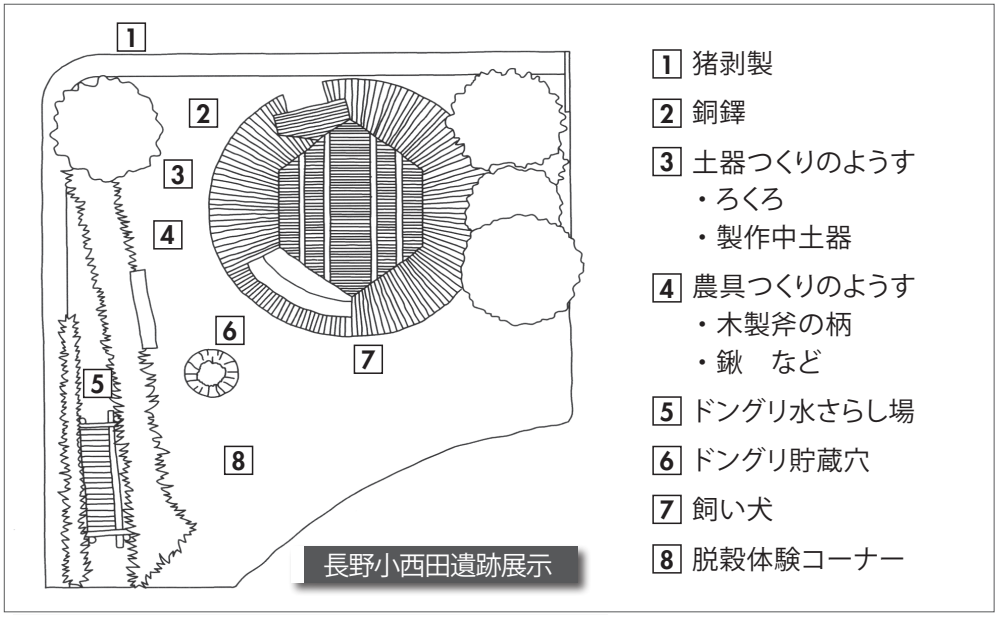
・　以前は瀬戸内海、九州北部の沿岸部に生息していたが、埋め立てなどで減ってしまい、今では絶滅危惧種に指定されている。現在でも多くのカブトガニが生息している地域は、曽根干潟、福岡市今津湾、佐賀県伊万里湾、山口県山口湾などである。…等

3　曽根干潟の役割やはたらきについて、調べたことや感じたことをまとめよう。

・　曽根干潟は潮の満ち引きに応じて、冠水と干出を繰り返し、豊富な酸素と太陽エネルギー、川から流　れ込む有機物、栄養塩類などが多くの生物の生息を可能にしている。また、天然の浄化槽として大切な場所である。
・　微小藻類、バクテリア、ゴカイ類のすみかになっており、カニなどにとっての餌が豊富である。さらにカニなどを餌とする鳥も多く飛来し、食物連鎖が成り立っている。…等。

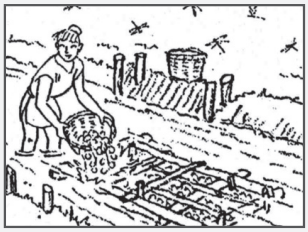
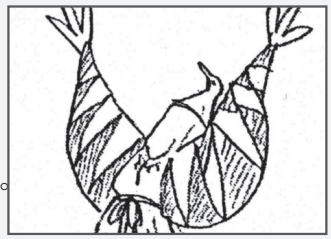
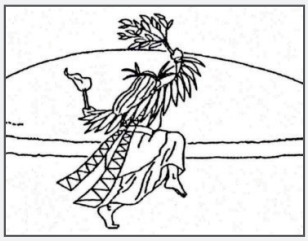
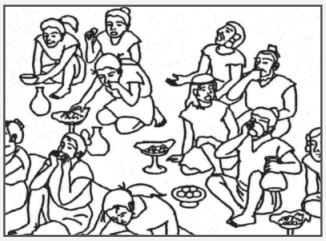
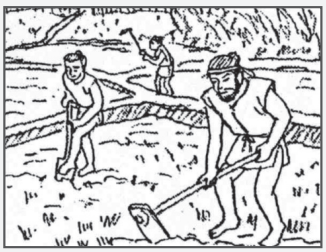
学校　1 年　　組

探究館の展示案内 ／ 弥生時代復元住居

場　所	展　　示	
竪穴住居内部	家族の人形	・石包丁を作っている父親　・石槍をもつ男の子 ・米をとぐ母親　・木の枝をもつ女の子
	食べ物	・干されている稲　・米　・柿　・栗　・山芋 ・干し魚　・火であぶられている魚　・貝
	土器	・甕…２　・壺…２　・高坏…１
	道具など	・土笛　・石包丁　・石囲いの炉
竪穴住居の外	◎ 考古探究館見取り図  ・　ここでは、北九州市小倉南区の長野小西田遺跡をモデルに、弥生時代の暮らしが体感できるよう再現しています。季節は秋です。 ・　この遺跡ではドングリのアクを抜くための「水さらし場」やドングリの貯蔵穴が見つかっています。「水さらし場」は、川の底に割り裂いた木で枠を作ったもので、長さ30数メートルにもおよぶ大規模なものでした。このムラでは、米だけでなくドングリも大量に食料としていたことが分かります。	
長野小西田 遺跡出土品	・ドングリ貯蔵穴断面　・小型壺　・袋状口縁壺　・脚付短頸壺　・長頸壺型土器 ・壺型土器　・器台　・砥石　・叩石　・太型蛤刃石斧　・抉入柱状片刃　・石鎌 ・平鍬未製品　・把手付き容器　・石斧直柄未製品　・扁平片刃石斧 ・柱状片刃石斧　・石剣　・石包丁　・皮袋形土器　・鐸型土製品　・鉄製鋤、鍬先 ・鉄製鉈　・青銅製鋤先　・パネル「長野小西田遺跡」 ※　この時代の道具の中心は、石でした。鉄、青銅器が使われ始めた時代です。	

時間 3 分

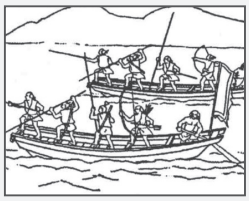
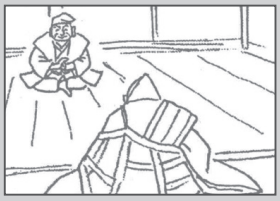
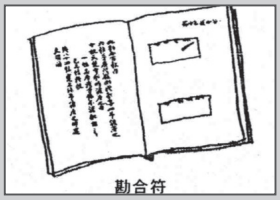
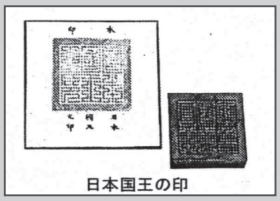
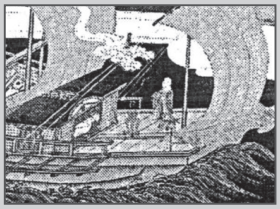
探究館映像 ／ 弥生の暮らし

	画　面	ナレーション
1 北九州の弥生のムラ	◎石包丁で稲の穂を摘み取る様子。 ◎高床式倉庫に稲を保管する様子。 ◎ムラの中の生活の様子 ・機を織る人 ・犬をおいかける子どもたち ・ドングリ水さらし作業	弥生のムラに実りの秋が訪れました。 
2 祭り	◎鳥の姿の男の踊り ◎祭りに参加する人々 ・銅鐸を鳴らす人 ・楽器を演奏する人 ・踊る人	男たちは、鳥の姿を装い踊りました。 弥生の人たちは、豊作を神に感謝する祭りを行いました。収穫を祝って歌い、踊ります。 
3 埋葬	◎埋葬するようす。石棺。 ◎祈りを捧げる巫女 ◎葬式に参加する人々の様子。 ・死者を悼む人々 ・飲食をする人々 ・踊る人々 テロップ 「死する停喪十余日、時に当りて肉を食わず、喪主哭泣し、他人就いて歌舞飲酒す。」	弥生時代は、病気や怪我で亡くなる人が多い時代でした。巫女が死者の霊を鎮め、舞を捧げます。 魏志倭人伝に人が死ぬと14日喪に服して、肉を食べず、喪主は泣き叫び、ほかの人は、酒を飲み、歌い、舞うと記されています。  
4 争い	◎弥生のムラの戦闘場面 ・環濠集落 ・弓矢 ・盾と剣をもって戦う人	弥生のムラでは、時には争いもおこりました。ムラのまわりの柵や壕が、大きな役割を果たしました。
5 春のムラ	・田おこし ・あぜつくり ・田植え	穏やかなムラの営みがまた始まります。 

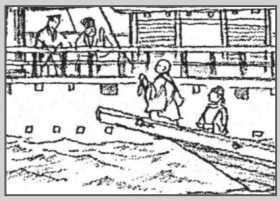
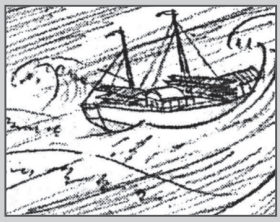
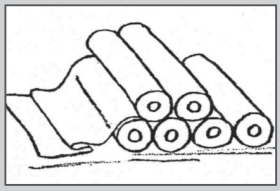
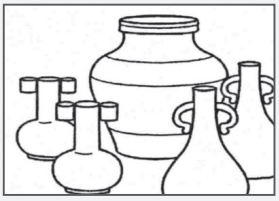
資　料

時間４分

遣明船シアター ／ 門司が支えた遣明船①

画　面	ナレーション
1 門司五郎左衛門祐盛	古代から、海の路は門司をはじめ北九州の人々の活躍の舞台でした。 祐 盛　「儂(わし)はいまからおよそ６００年前の室町時代、明と往復した遣明船の船頭(ふなおさ)、門司五郎左衛門祐盛じゃ。」
2 勘合貿易と和寇	当時和寇が、たびたび朝鮮や明を襲っていた。  祐 盛　「明としちゃあ、勘合貿易を行うことで、和寇の取り締まりを求めたというわけよ。」
3 勘合貿易の起こり ・筑紫の商人肥富と将軍義満の会話   勘合符  日本国王の印	祐 盛　「この頃、明から帰った筑紫の商人肥富(こいづみ)は時の将軍足利義満に、貿易を行うと大きな利益があると説いたんだ。」 義 満　「何、明の永楽帝が貿易を望んでおるのか」 肥 富　「仰せの通り、さすれば将軍様にも莫大なご利益が」 義 満　「うん。」 祐 盛　「こうして将軍義満が遣明使節を送り勘合貿易がはじまった。」 祐 盛　「勘合符という合い札で和寇と区別したというわけだ。」 「明の永楽帝は義満に日本国王の印と勘合符百枚を与えた。」 ※ 1401 年（応永８）に３代将軍義満が遣明船を渡航させ、通商を求めたのをきっかけに日明貿易が始まる。実際に勘合貿易が始まったのは、義満が将軍職を退いた後の1404年（応永 11）だった。
4 貿易船の活躍 	祐 盛　「船は門司で仕立てたものよ。真如堂縁起に絵が残っとる。船は外洋を渡るため、かなり大きいし、東シナ海を乗り切るんじゃから筵を張った帆を２枚も使っとった。」 「儂は第１２回遣明船の時、公方船の和泉丸の船頭となった。儂たちは優れた航海技術をもっていたんじゃ。」

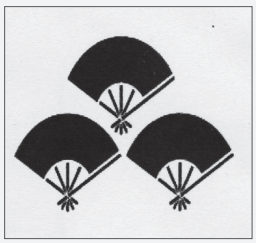
遣明船シアター ／ 門司が支えた遣明船②

画　面		ナレーション	
		祐 盛	「遣明船には門司の大通寺の僧が乗ったこともあったとじゃ。坊さんは銭勘定も得意だったんだ。湊門司はあらゆる面で遣明船を支えたのよ。」
			○　照明暗くなる（雷のストロボ）
5 嵐の中の遣明船		祐 盛	「海はいつも優しくはなかったぜ。」 「凄い嵐とも儂たちは闘ったものよ。門司の船方は船を操る腕は誰にも負けなかった。」
6 遣明船の積荷			○　展示の照明が甲板の荷を照らす。
		祐 盛	「日本から刀剣や硫黄、銅それに扇や蒔絵の箱などの工芸品が輸出されたんじゃ。」
		祐 盛	「ほら、そこの積荷を見てくれ。」
		祐 盛	「明からは永楽銭、絹織物、陶磁器、書画、書籍などを輸入した。」 
		祐 盛	「遠洋の航海には儂たち門司氏の力が欠かせなかった。」
7 勘合貿易の断絶		祐 盛	「その後博多の商人を支配下にもつ守護の大内氏が貿易を独占するようになった。」 盛んな勘合貿易でしたが、大内氏が滅んで途絶えました。
			しかし、公の貿易は途絶えても海に生きる者たちの交流はその後も盛んに行われました。 海は自由の世界です。

資　料

時間２分

長野城合戦模型解説ナレーション

	模型の演出	ナレーション
1 畝状空群の工事場面	・　親方に指揮された百姓たちが空堀を作っている。女性も作業に参加している。	長野城は長野氏が築いた戦国時代を代表する山城です。永禄８年６月、長野城は大友勢の攻撃を受けました。
	《男女の力仕事の声》 土堀り 《掘る音》 仕上げ 《照明―土掘り、仕上げをスポット》	長野城の特徴の一つは斜面に沿って掘られた無数の空堀にあります。 背丈よりも深く土を掘り下げています。この工事には多くの百姓たちが動員されました。
2 城櫓、逆茂木、矢来などの防御施設	《照明―城櫓にスポット》	長野城の防御の構えは厳しいものでした。櫓を設け、昼も夜も見張りが敵の動きを監視しました。
	《照明―矢来にスポット》	矢来が張りめぐらされていました。この間から下の敵に向かって矢を射ったり、鉄砲を撃ったりしました。
	《照明―逆茂木にスポット》	また、切った木を下に向けて構える、いわゆる逆茂木を並べ、攻め登る敵を阻みました。
3 大友勢の隊別構成	《兵士たちの声、エイエイオー》 《照明―大友勢にスポット》	攻める大友勢は４人の大将がそれぞれに鉄砲、弓矢、槍を備えた兵を引き連れていました。 大友氏の旗印  長野氏の旗印
4 武器（鉄砲・弓矢・槍）を使用する合戦場面	・　城兵、大友勢双方の鉄砲が火を噴く。	大友一族は杏葉紋の旗を掲げています。 城の守りは堅く、兵も果敢に戦いました。この頃、地方豪族の長野氏もすでに鉄砲を持っていたのです。
	《鉄砲を撃つ音》 《弓矢が飛び交う音》	空堀を攻め上がってくる大友勢を鉄砲や弓矢で狙い撃ちにしました。
	《雄叫び》	熾烈を極めた戦いは、２か月に及び、長野勢はついに力つき、城は落ちたのでした。